

発大議第 485 号
令和7年11月27日

大山町長 竹 口 大 紀 様

大山町議会議長	吉原美智恵
総務経済常任委員長	西本 憲人
教育民生常任委員長	大森 正治
	(公印省略)

大山町議会からの政策提言について

大山町議会では令和元年度から、各常任委員会において議会独自の事務事業評価に取り組んでいるところであります。

このたび、今年度の事務事業評価結果をとりまとめましたので、大山町議会基本条例第2条及び第11条第2項に基づき、政策提言として提出します。

なお、本提言に対する対応につきまして、回答をいただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

大山町議会

事務事業評価 結果

①総務経済常任委員会

評価事業名	事業番号	担当課
名和マラソンフェスタ	252	商工観光課

②教育民生常任委員会

評価事業名	事業番号	担当課
診療所費	164	健康推進課

令和7年11月27日

大 山 町 議 会

評価事務事業名	名和マラソンフェスタ
---------	------------

委員会のまとめ

1. 委員会の項目別 評価点

評価項目	評価基準		点数	評価委員数	総点数	総人数	委員会 平均点
(1) 必要性	①	きわめて高い	25	1	130	8	17
	②	高い	20	3			
	③	どちらかといえば高い	15	1			
	④	どちらかといえば低い	10	3			
	⑤	低い	5				
	⑥	ない	0				
(2) 公共性	①	きわめて高い	25		110	8	14
	②	高い	20	2			
	③	どちらかといえば高い	15	3			
	④	どちらかといえば低い	10	2			
	⑤	低い	5	1			
	⑥	ない	0				
(3) 費用対効果	①	きわめて高い	25	1	125	8	16
	②	高い	20	1			
	③	どちらかといえば高い	15	4			
	④	どちらかといえば低い	10	2			
	⑤	低い	5				
	⑥	ない	0				
(4) 成果	①	きわめて高い	25		110	8	14
	②	高い	20	3			
	③	どちらかといえば高い	15	1			
	④	どちらかといえば低い	10	3			
	⑤	低い	5	1			
	⑥	ない	0				

合計 61

2. 委員会の項目別評価

評価項目	平均点	委員会評価コメント
(1) 必要性	17	イベント目的が、「健康増進、参加者と地域のふれあい、観光促進」ということである。恵みの里など町内施設への集客にも寄与している点は評価できる。また、参加者を観戦する人々も健康を意識する良いきっかけとなっている。一方で、町民参加者の減少や職員・ボランティアの負担が大きい。今後は、主軸となる目標・数値設定と運営体制の見直しを行う必要がある。
(2) 公共性	14	町職員や地域団体、商工関係者、住民など幅広い層が関わることで、地域交流や関係人口の拡大につながっている。また、沿道で応援する住民の楽しみとなっている点において、一定の公共性が認められる。一方で、町民参加が少なく、町民ニーズを捉えた大会でないという課題がある。今後は、町民へのPRやウォーキングなど多様な参加形態の導入を通じて、公共性をさらに高める取組が求められる。
(3) 費用対効果	16	現在、参加費や繰越金で運営されており、町の補助なく運営が出来ている点は評価できる。しかし、実際には繰越金を取り崩した運営となっている状態。また、多くの町職員やボランティアが関わっているものの人件費が計上されていないため、実質的な経費は高いと言える。さらに、年間を通して、事務局としての仕事が0.5人役、イベント開催時期の繁忙期には、年換算でさらに0.5人役の人件費が必要である。今後は、参加費の見直しや広告収入の増加を検討する必要がある。
(4) 成果	14	大会の目的は「健康増進、参加者と地域のふれあい、観光促進」である。大会の継続により、地域への定着や町外からの参加は一定の成果が見られている。一方で、町民参加が少なく、健康増進や地域交流といった当初の目的達成度は低下している。参加者数も頭打ちであり、観光促進の面でも大きな効果は確認しづらい。今後は、ウォーキング種目の復活や町民の健康増進に向けた取組に加え、大会の目的や目標、成果の判断基準など見直しが必要である。

評価事務事業名	名和マラソンフェスタ
---------	------------

3. 委員会の評価

0. 委員会の計画			
委員会の 評価	評価点		委員会の評価理由
	61点 / 100点		
	参考値		
	高	低	
	80点	35点	

4. この事務事業に対する委員会の改善意見の提案

本事業の今後の実施については、以下のような改善が必要と考える。

- 目的に関して
 - ・大会目的の明確化、参加者数や満足度などの目標値・結果を設定し、成果を可視化する。
- 町民の健康増進に重点を置く場合
 - ・町民の健康増進を目的とする場合は、町民参加を促進する方向でウォーキングや誘客など再設定する。
- 観光振興に重点を置く場合
 - ・観光振興として継続する場合は、町内事業所の利用(宿泊や飲食、物産)を促進し、観光振興につなげる。
 - ・業務の一部委託や地元出店ブースの拡充により地域経済への波及効果を高める。
- 運営体制に関して
 - ・町職員の動員を減らし、補助金を活用して外部人員を確保する体制を検討する。
 - ・事務局業務を陸上競技団体や地域自主組織など民間団体などへ移管し、適正な規模の補助金で支援する。

5. 事務事業評価に対する行政の対応状況

--

6. 委員会の総括

--

令和7年度 大山町議会 事務事業評価シート NO 3/4
《令和6年度実施事業》

教育民生常任委員会

評価事務事業名	診療所費
---------	------

委員会のまとめ

1. 委員会の項目別 評価点

評価項目	評価基準		点数	評価委員数		総点数	総人数	委員会 平均点
(1) 必要性	①	きわめて高い	25	4	100	170	8	22
	②	高い	20	2	40			
	③	どちらかといえば高い	15	2	30			
	④	どちらかといえば低い	10					
	⑤	低い	5					
	⑥	ない	0					
(2) 公共性	①	きわめて高い	25	1	25	150	8	19
	②	高い	20	4	80			
	③	どちらかといえば高い	15	3	45			
	④	どちらかといえば低い	10					
	⑤	低い	5					
	⑥	ない	0					
(3) 費用対 効果	①	きわめて高い	25			110	8	14
	②	高い	20	1	20			
	③	どちらかといえば高い	15	4	60			
	④	どちらかといえば低い	10	3	30			
	⑤	低い	5					
	⑥	ない	0					
(4) 成果	①	きわめて高い	25			130	8	17
	②	高い	20	3	60			
	③	どちらかといえば高い	15	4	60			
	④	どちらかといえば低い	10	1	10			
	⑤	低い	5					
	⑥	ない	0					

合計 72

2. 委員会の項目別評価

評価項目	平均点	委員会評価コメント
(1) 必要性	22	本町では、高齢化により遠方への通院が困難な住民が多く、3診療所とも地域医療の拠点として不可欠であり、予防医療の実施や訪問診療・介護施設への往診など地域の医療を支える意味での町の事業として必要性は高い。
(2) 公共性	19	過疎化が進む地域において、誰もが等しく医療サービスを受けられる診療所は、住民の生活を支え安心につながっている。住民からのニーズに対応して、訪問診療やオンライン診療など更に進めていくべきである。
(3) 費用対効果	14	財源補填をしながらも医療サービスの提供に努めているが、今後上がり続ける診療所運営のための経費に対して無尽蔵に予算を増やせるものではない。収益性が優先ではないとはいえ、運営面で収支の改善を図るための見直しは必要である。
(4) 成果	17	3診療所ともに通常の診療だけでなく訪問診療を進め、地域と連携しての予防医療に努めるなど町民の健康な暮らしを支えていることは評価できる。しかし今後の人口減少を見据え、様々な角度からの検討をすべきである。現在、持続可能な質の高い地域医療を維持していくための「提案書」が示されており、その実践化による成果が待たれる。

評価事務事業名	診療所費
---------	------

3. 委員会の評価

8. 委員会の計画			
委員会の評価	評価点		委員会の評価理由
	72 / 100点		3診療所とも、常勤医師がかかりつけ医として住民のニーズに応えるために、外来診療はもちろん高齢者への訪問診療、予防医療など住民の健康管理に努めており、住民の安心・安全を保障している。 一方、経費削減と医療業務の効率化を実現するために、医療機器や人員の効率的な配置、人材の長期的ビジョンの構築、組織運営体制の整備などが課題である。
	参考値		
	高 90点	低 60点	

4. この事務事業に対する委員会の改善意見の提案

高齢化と過疎化が進む大山町であるが、診療所は町民の命と健康を守る地域医療の拠点として、「住民に寄り添って持続可能な医療体制の構築」を図るために、経済性を優先することなく、医療の質を高めるためのコストの最適化を進める必要がある。以下の通り、「コスト削減」等について提案する。

- ①ジェネリック薬品のさらなる活用
 - ②過剰在庫や使用期限切れ医薬品の廃棄がないよう在庫の適正化
 - ③適正な価格で仕入れをするよう、卸業者と交渉したり複数業者による競争原理を働かせたりする
 - ④胃カメラ・エコーなど各診療所にある医療機器の適切な配置と運用
 - ⑤医師・看護師・医療事務の適正な配置
 - ⑥大山口診療所心療内科の将来的な廃止が考えられる
 - ⑦診療所再編案に提示されているように、まず、「大山診療所＋名和診療所サテライト」案を住民の納得と合意を得ながら進める
 - ⑧オンライン診療による訪問看護の充実やデマンドバスによる薬の宅配など医療サービスの充実
 - ⑨1つの拠点施設(診療所)＋2～3の訪問看護ステーション化
 - ⑩サテライト化が難しいなら、民間移管などの議論も必要ではないか
 - ⑪診療所を効率的に運営するために、目的だけでなく目標を明確にする
- 以上の提案を推進するために、
- ⑫事務長の配置など診療所の組織運営体制の整備が急がれる

5. 事務事業評価に対する行政の対応状況

--

6. 委員会の総括

--